

※2001年11月改訂

薬事法改正に伴う改訂

2005年5月

ご使用に際して、この説明書を必ず読んで下さい。

また、必要な時に読めるよう本剤とともに保存して下さい。

乙 字 湯

第2類医薬品

(お っ じ と う)

本剤は、原南陽先生の創方による乙字湯に準拠して製造された煎薬用の紙バック剤です。



してはいけないこと



使用上の注意

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる。)

1. 本剤を服用している間は、次の医薬品を服用しないこと 他の瀉下薬(下剤)
2. 授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること



相談すること

1. 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談すること

- (1) 医師の治療を受けている人。
- (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
- (3) 体の虚弱な人(体力の衰えている人、体の弱い人)。
- (4) 胃腸が弱く下痢しやすい人。
- (5) 高齢者。
- (6) 今までに薬により発疹・発赤、かゆみ等を起こしたことがある人。
- (7) 次の症状のある人：むくみ
- (8) 次の診断を受けた人：高血圧、心臓病、腎臓病

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師に相談すること

- (1) 服用後、次の症状があらわれた場合

関 係 部 位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消 化 器	悪心・嘔吐、食欲不振、胃部不快感、はげしい腹痛を伴う下痢、腹痛

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けること。

症 状 の 名 称	症 状
間 質 性 肺 炎	せきを伴い、息切れ、呼吸困難、発熱等があらわれる。
偽アルドステロン症	尿量が減少する、顔や手足がむくむ、まぶたが重くなる、手がこわばる、血圧が高くなる、頭痛等があらわれる。
肝 機 能 障 害	全身のだるさ、黄疸(皮ふや白目が黄色くなる)等があらわれる。

- (2) 1カ月位(きれ痔、便秘に服用する場合には5～6日間)服用しても症状の改善がみられない場合には、服用を中止し、医師又は薬剤師に相談すること。
3. 長期連用する場合は、医師又は薬剤師に相談すること
4. 次の症状があらわれることがあるので、このような症状の継続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、医師又は薬剤師に相談すること 下痢

【効能・効果】

大便秘結傾向のあるものの次の諸症：痔核(いば痔)、きれ痔、便秘。

【用法・用量】

1包(1日量)につき水400mLを加えあまり強くない火にかけ200mLに煮つめ、紙袋とともに煎じかすを取り去り、食前1時間前又は食間空腹時に温服して下さい。

年 齢	1包(1日量) 煎 じ 液	1 日 服用回数	年 齢	1包(1日量) 煎 じ 液	1 日 服用回数
大人(15才以上)	全 量	3回～2回 に分けて	15才未満7才以上	2/3量	3 回 に 分けて
			7才未満4才以上	1/2量	
			4才未満2才以上	1/3量	
			2才未満	1/4量以下	

〈用法及び用量に関連する注意〉

- (1) 定められた用法・用量を厳守すること。
- (2) 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させること。

【成分・分量】

【本品1包(1日量) 19.0g中】
 日本薬局方 サ ウ キ…6.0g 日本薬局方 カ ン ソ ウ…3.0g
 日本薬局方 サ イ コ…5.0g 日本薬局方 シ ョ ウ マ…1.0g
 日本薬局方 オ ウ ゴ ン…3.0g 日本薬局方 ダ イ オ ウ…1.0g

【保管及び取扱い上の注意】

- (1) 小児の手のとどかない所に保管すること。
- (2) 直射日光をさけ、なるべく湿気の少ない涼しい所に保管すること。
- (3) 誤用をさけ、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。
- (4) 煎じ薬は腐敗しやすいので、冷暗所又は冷蔵庫等に保管し、服用時に再加熱して服用すること。

【問い合わせ先】

東洋漢方製薬株式会社 フリーダイヤル 0120-00-1040
 受付時間10:00～17:00(土、日、祝日を除く)

製造販売元

東洋漢方製薬株式会社

大阪府富田林市中野町東2-1-16